

随泉寺寺報

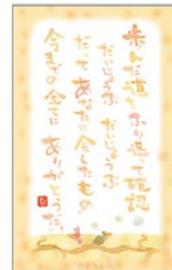
平成 25 年 (2013 年) 5 月号 第 5 1 3 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺 宗祖降誕会

■親鸞聖人と降誕会

親鸞聖人は承安 3 年に御誕生になり、9 歳で出家得度され、比叡山で学問と修行に励まれました。しかし、迷いを離れる道を見いだすことができず、29 歳の時、聖徳太子の示現を得て、源空聖人に遇われ、本願を信じ、念仏する身となりました。



35 歳の時、承元の法難により、越後にご流罪となりますが、後にはご家族を伴って関東に移り、人びとと生活をともにし、自信教人信の道を歩まれました。晩年は京都で、ご本典の完成に努められるとともに、三帖和讃など多くの著述にお力を注がれ、90 歳を一期として往生の素懐を遂げられました。



親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は、あらゆる人びとが、阿弥陀如来の本願力によって、往生成仏し、この世に還って迷えるものを救うためにはたらくという教えです。南無阿弥陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報恩感謝の思いから、如来のお徳を讃える称名念仏の日々を過ごさせていただくのです。

西本願寺では明治 7 年 (1875) より、この日を「降誕会」と名づけ、親鸞聖人のご誕生を祝って、多くの行事が催されています。

5 月の法座予定

- 5 月 2 日 本部役員会
- 5 月 11 日 庫裏増改築 引渡し
- 5 月 12 日 掃除 荒野
- 5 月 12 日～13 日午前 10 時より .. 庫裏見学日
- 5 月 28 日午後 2 時より 荷物移転・掃除
- 6 月 1 日午後 5 時より 門信徒会本部役員会
- 5 月 2 日 本部役員会

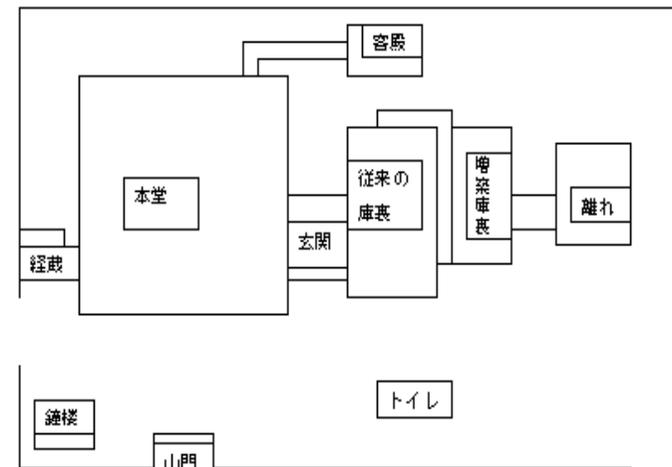
☆ 庫裏増改築事業

庫裏の増改築はほとんど完成になりました。今は内部の棚とか、外回りの工事を残すだけです。いよいよ引渡しも 5 月 11 日と決まりました。当初の工事日程は 3 月 31 日の予定でしたので、1 ヶ月半ほど伸びたことですが、追加工事等があり、ようやく完遂と運びとなりました。増築した新しい庫裏と、従来の庫裏との接続も無事終わり、見違えるように立派になりました。足場や保護シートを撤去されたら、全容が見えて感動しました。

計画の段階では、そんな事がうまくいくのかという危惧の意見も聞きましたが、奥島設計士の《大丈夫です》という言葉を感じて、遂行してまいりました。

5 月の 12 日と 13 日に見学会を催うしますので、ぜひとも見に来てください。これは門信徒の皆さんの庫裏・本堂ですので、我が家が完成したと思って、多数参加してください。

これで庫裏の大広間で 80 名ぐらいのおとぎが食べていただけるようになります。またこれからは、机といすの予定です。まだ備品がそろいませんが、ボツボツ調べて行きたいと思っています。お葬式や法事等にも活用していただきたいと思っています。



本願寺第24代門主 大谷光真様が、本願寺に念仏奉仕団で、参詣された方々にお話された御法話が、本になりましたので、毎月少しづつ転載いたします。

5月

「われわれ凡夫には まことの心は ないのです」

普賢大圓

私たち現代人にとって、親鸞聖人のみ教えで判りにくいことの一つは、悪人とか凡夫ということではないでしょうか。

私たちは、他人と比べて、少しは良いところもあると思ったり、逆に、私も凡夫だから、悪いことをしても仕方がないと、ごまかしたりしているからです。さらには、現代人は昔の人より優れていると思ったり、貧しい国の人々より、立派だと思ったりします。

阿弥陀如来様の限りないお慈悲のお心を聞かせていただきますと、私が凡夫という言葉、自分勝手に都合よく用いていることに気付かされます。大事なことは、私が、日常の出来事一つ一つを正しく処理しているかどうかという以前に、いのちのあり方そのものに、迷っているということです。そのことを阿弥陀如来様に見抜かれ、真実に依ることを教えられるのです。阿弥陀如来様からご覧になったいのちはどれも、等しく大切ないのちです。阿弥陀如来様のお心、すなわち南無阿弥陀仏に依って、私の人生は心の窓が開かれ、共の手を取って往生浄土の道を歩むものとなります。

ご門主様ご退任 新門様法 灯を継承

浄土真宗本願寺派（本山・西本願寺、京都市下京区）の大谷光真門主様（67）は4月15日、西本願寺の御影（ごえい）堂で同日行われた春の法要（立教開宗記念法要）で、集まった門信徒に、来年6月5日の退任を表明されました。約3500人の参拝者らを前にした「お言葉」では、2011年に親鸞聖人750回大遠忌法要を無事勤め上げたことなどをあげ「10年後には（親鸞の）ご誕生850年を迎える。新たな歩みを始める良い時期だと考えます」と述べられました。

また後を継ぐ長男の光淳（こうじゅん）新門（35）様について「新鮮な感覚と知識を持って任を たくしてくれと思います」と期待を示されました。

本願寺派の門主は宗祖親鸞聖人の子孫で、約750年にわたり大谷家が世襲してき

ました。門主の交代は1977年以来となります。来年6月5日に西本願寺で行う「法統継承式」で、光真門主から光淳新門に門主と西本願寺住職の座が譲られる予定です。その後、新門主の就任を披露する「伝灯奉告法要」を実施する見込みです。

光真御門主は、65歳まで50年在した父の故光照様から門主を継承されました。親鸞750回遠忌法要や、宗派と本山の運営を分ける組織改革を行なわれました。

光淳新門様は「浄土真宗の歴史を真摯（しんし）に見つめ、次世代へと教えが伝わるよう精いっぱい努める」とコメントされました。

記者会見した園城義孝総長は「今日までのご教導に対する感謝と寂しさの中に、身の引き締まる思い」と話しました。今後、新たに委員会を設置して継承に向けた具体的な計画を練るとのことです。



生きることの意味と価値

最近、人は「生きたしるし」をこの世に残さなければ自分がこの世に存在した意味がないと思う人が多いように思われる。「生きたしるし」とは一体何だろう。それは自分自身の生きることへの問いでもある。

人はいろいろなことに意味を求める。意味がないと生きていけない存在になってしまった。人生にも仕事にも、遊びにさえも意味を求める。他の動物や草木のように、授かったいのちをそのままいただき、全うすることのできない存在である。

このところ、その「意味」が「価値」と同等のものになってしまったと感じる。「人生の意味」、「仕事をする意味」、が「人生の価値」、「仕事をする価値」、と。現在の企業社会は苛烈（かれつ）な競争社会であり、短期間に目に見える形で成を上げ続けていくことが求められる。また、家庭においてもそれぞれの役割の中で、何らかの形で成を上げることにより、自分自身の存在価値を見いだそうとしているように思う。皆が必死で何らかの結を出すことにより価値を生み出そうとしている。何故か？ 価値がなければ意味がない社会だからである。そんな社会では、たとえば寝たきりでなんら社会に貢献することが出来ないなら、価値がゼロ。生きている価値がないということになりかねない。このことは近年の自殺件数の多さと無関係とは思えない。

釈尊の「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」という言葉は、一人ひとりの人間が、そのまま尊い存在だ、ということだと思ふ。この世に生を受け、生きている、そのことだけで尊いのだということである。言葉をかえれば、成を上げ価値を生み出そうとしなくとも存在そのものが大切なのだということだ。そこで、生きるということに対し、自分でいろいろな意味付けをすることが無意味だと気づかされる。

「生きたしるし」は、生きることに無理に意味を求めなくなった時、自然にかたちづくられるものなのかもしれない。